
TOP SECRET

MISSION 5

**やってみよう! サイバー攻
撃対策シミュレーション**





サイバー攻撃前夜



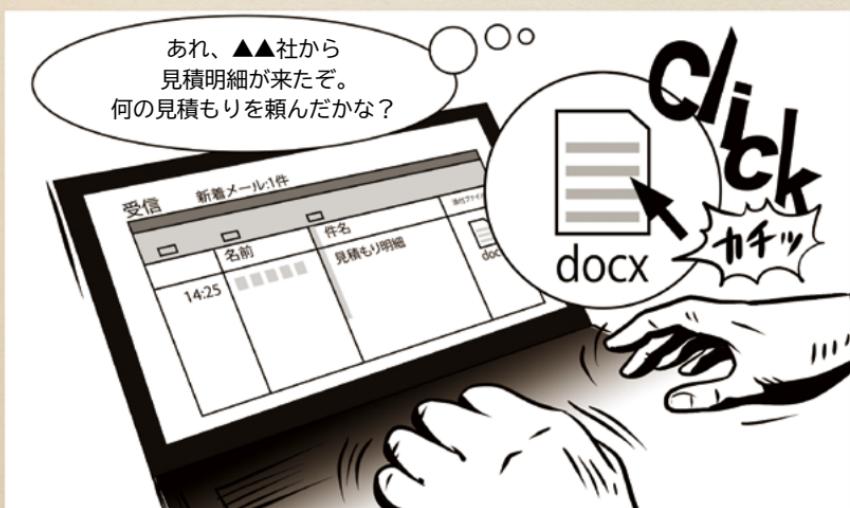


攻撃発生その瞬間

まずは、この会社の取引先をかたって標的型メールを送ってみるか。
件名とファイル名は「見積明細」でいこう



あれ、▲▲社から
見積明細が来たぞ。
何の見積もりを頼んだかな？





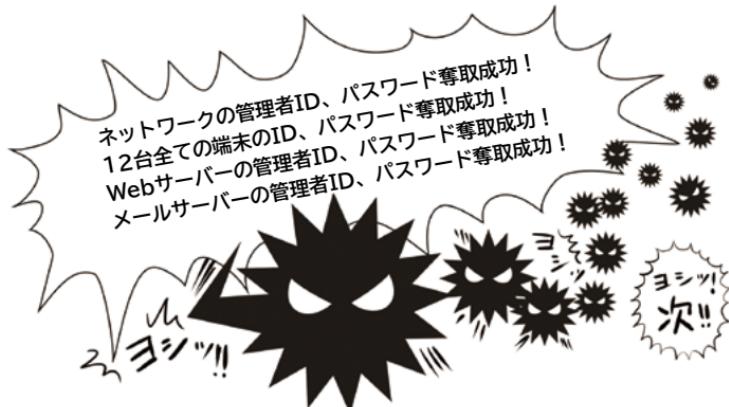
サイバー攻撃直後

よおし、標的型メールを開いたぞ。
さあ、活動開始だ

ネットワークの
防御態勢を報告します。
各パソコンにはウイルス対策
ソフトが入っていますが、きちんと
更新されていません



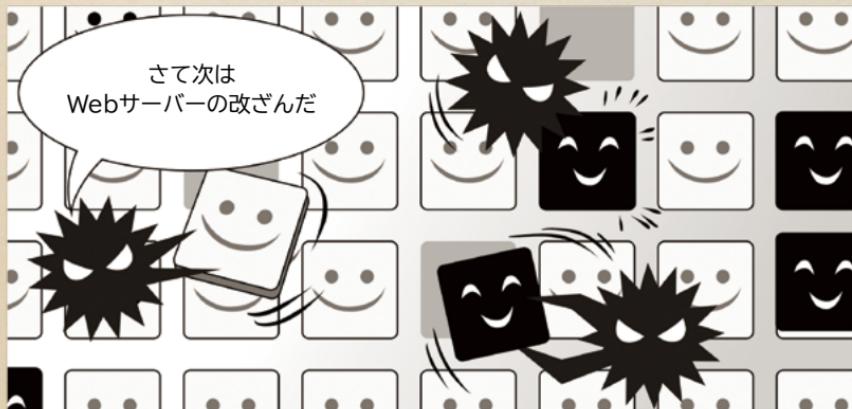
ネットワークの管理者ID、パスワード奪取成功！
12台全ての端末のID、パスワード奪取成功！
Webサーバーの管理者ID、パスワード奪取成功！
メールサーバーの管理者ID、パスワード奪取成功！





潜入拡大

クレジットカードの個人情報を取得。クレジットカードを自由に使うためにセキュリティコードなどを盗み取る





顧客への被害の拡大 取引先への被害の拡大

フィッシングサイトでセキュリティコード情報を窃取。
取得した個人情報を使ってキャッシングで現金を引き出す



●●食品卸売株式会社からの請求明細のメールを装い、
標的型メールの攻撃





サイバー攻撃の発覚



さあ、あなたならどうしますか？

ACTION
1

原因と被害範囲の調査を 自社で実施できるかどうかを判断する



標的型攻撃に代表される企業ネットワークに対する外部からの攻撃や、Webアプリケーションの改ざん、不正アクセスなどのサイバー攻撃の発生時に、本格的な調査（フォレンジック（法的）調査、ウイルスの不正プログラムの解析、ログの分析など）、復旧支援と再発防止策のアドバイスを支援するセキュリティ会社があります。

ACTION
2

原因と被害範囲の調査を依頼する





原因が判明 ウイルス感染が原因



さあ、あなたならどうしますか？

ACTION
1

ネットワークからの切断

いや、それでは
メールも送れなくなって
業務が中断してしまう

ネットワークから
切断して感染を駆除する作業
を進めます

このままでは、どんどん感染
を拡大させてしましますよ

ACTION
2

感染ウイルス・不正プログラムの駆除

一応、感染ウイルス
と不正プログラムは
駆除しました

また、各端末のウイ
ルス対策ソフトは最
新版に更新しました

ええー！

OSは最新バージョン
自動更新をチェック

アプリケーションも
最新の状態に

データは必ずウイルス対策
ソフトで複数チェック

しかし、これだけ
では安全とはいえません。
感染した端末は全て
初期化します

ACTION
3

各機関への連絡・関係先への報告



再発防止策の作成



さあ、あなたならどうしますか？



ACTION
1

物理的および環境的セキュリティを再検討する

何をやらなければ
いけないのでしょ
うか

管理者

まずは、個別のウイルス
対策だけでなくネットワーク
全体の統合セキュリティ機器を
導入したり、アクセス管理の設
定を行ったりなど基本的なこと
を確実にやっていきましょう

ACTION
2

社員教育など人的セキュリティを強化する

今回の攻撃ではウイルス
対策ソフトの自動更新を停止して
最新版にしなかったり、安易に添
付ファイルを開いてしまったりなど、
社員のITスキル不足も原因の1つ
です。社員教育も必要ですね

それと多少なりとも
サイバーセキュリ
ティのことが分かる
人材を育成すること
も必要です

分かりました



復旧回復



セキュリティ対策を軽く見ていたために、結果的には費用が高くなきました

まだやることがありますよ

さあ、あなたならどうしますか？

ACTION
1

情報漏えいについての発表



ACTION
2

再発防止の恒久的対策

毎回ログイン
しなければならないが、
安全のために仕方がないね



ACTION
3

不審なログオンや通信の監視

不自然な通信をしているプログラムがないか、外部から不正なログオンが行われていないか、監視します。





大切なのは社内意識の向上！ ～感染を狙うメールに注意～





経営者にとってメールの安全な運用は他人事ではない!

コンピューターウィルスやマルウェアは、以下のような経路から感染する。

- ・USB機器からの感染
- ・ファイル共有、アプリからの感染
- ・ウェブ閲覧からの感染 など

これらは、システム設定などにより使用を禁止することで回避できる。しかし、ビジネスツールであるメールを一切禁止することは現実的ではない。加えて、メールを悪用した攻撃の中には人の心理的な隙や行動ミスをついた、システム設定だけでは対応が難しい手口も存在する。

メールを発端とするサイバー攻撃の中には、企業の事業継続に多大な影響を与えるものもある。自社がそのような当事者にならないためにも、定期的な勉強会や訓練を実施するほか、経営者自身も率先して参加するなど、社内全体で危機意識を共有し、個々のリテラシー向上を図っていくことが何より大切だろう。

